

わ が 街 わ が 故 郷

日本トムソン株式会社と港区高輪

日本トムソンの本社へは、JR品川駅から私鉄の京浜急行に乗り換え、一つ目の泉岳寺駅が最寄りとなります。下車してA4出口から地上に出ますと、すぐ左隣が当社です。雨が降ってもほとんどの場合、傘は必要ありません。またJR品川駅から田町方面に向かって歩いて15分程度のところですが、当社の前には、都内でも有数の幹線道路である第一京浜国道（国道15号線）、後ろ側はJR山手線、京浜東北線、東海道新幹線が走るなど、交通の面では賑やかなところにあります。

オフィスビルが立ち並ぶ国道沿いから一步はずれると、そこには閑静な住宅街とお寺などの史跡が点在し、散策には適した町並みです。それでは、港区高輪についてご紹介します。

1. 会社の紹介

【所在地】

日本トムソン株式会社

〒108-8586

東京都港区高輪2-19-19

電話番号 03-3448-5811（代表）

<http://www.ikont.co.jp/>

当社は、昭和25年(1950年)に、大一工業株式会社として軸受等の販売を目的に、愛知県名古屋市に設立されました。昭和38年(1963年)に

本社を東京都港区新橋に移転し、社名を現在の日本トムソン株式会社に変更しました。昭和43年(1968年)に、現在地の東京都港区高輪に移転しています。

【生産品目】

主要製品は、ニードルベアリング、直動案内機器（直動シリーズとメカトロシリーズ）に大別されます。特に環境面では、環境負荷低減とお客様の給油管理工数の削減につながる潤滑部品「Cループ」を開発し、ベアリングや直動案内機器に組み込んだCループ・メンテナンスフリーシリーズ製品として生産し、地球環境に貢献しています。

2. 東京都港区の紹介

【位置と地形】

港区は、東京都のほぼ東南部に位置しています。東は東京湾に面し、その北端でわずかに中央区に接し、周囲を千代田区、新宿区、渋谷区、品川区、江東区に隣接しています。

総面積は約20.34km²（東京23区中12番目の広さ）、地形は東京23区の中でもっとも起伏に富んでおり、西北一帯の高台地と、東南の東京湾に面した低地および芝浦海浜の埋立地からなっています。海拔34mの最高地は赤坂台地の北青

山3丁目付近、最低地は海拔0.08mのJR浜松町駅前ガード付近です。

【道路】

港区内を古くから重要な二つの街道が通っています。一つは新橋から芝を通り高輪に抜ける第一京浜国道（国道15号線）で、江戸時代もとても重要な街道であった東海道です。高輪には、江戸の町の玄関である『高輪大木戸跡』の石塁が残されています。

もう一つは、赤坂見附から青山を通り渋谷に抜ける青山通り（国道246号線）で、古くは厚木街道（大山道）と呼ばれ、江戸と相模を結ぶ重要な街道でした。

3. 高輪とその近辺の紹介

【高輪（たかなわ）の地名】

当社の所在地である、高輪の地名の歴史は古く、大永4年(1524年)の「軍記物語」に激戦が展開された地として、「高縄（たかなわ）原」の名が登場しています。このほかに、高鼻和、高名輪、高縄など、時代によってさまざまな表記があったようですが、現在の“高輪”に落ち着いたのは、江戸時代(1640年頃)の記録が最初といわれます。

昭和42年(1967年)の「新住居表示」により、各町名が大合併し、現在の「高輪」となりました。「忠臣蔵」でおなじみの『泉岳寺』は、高輪2丁目にあります。

【東海道警備の要となった『高輪大木戸跡（たかなわおおきどあと）』】

高輪大木戸は、江戸時代中期の宝永7年(1710年)に芝口門に立てられたのが起源で、享保9年(1724年)に現在地に移されました。

大木戸は江戸の南の入口として、道幅約6間

(約10m)の旧東海道(現第一京浜国道(国道15号線))の両側に石垣を築き、夜は閉めて通行止めとし、治安の維持と交通規制の機能を持っていました。

京登り、東下り、伊勢参りの旅人の送迎もここで行われ、付近には茶屋などもあって、当時は品川宿にいたる海岸の景色もよく月見の名所でもありました。幕末期には、伊能忠敬はここ高輪大木戸を全国測量の基点としたとされています。

現在は、海岸側に幅5.4m、長さ7.3m、高さ3.6mの石垣のみが残されており、東京に残された数少ない江戸時代の産業交通土木に関する史跡として重要なものです。

大木戸跡は当社本社ビルのすぐそばにあります。写真のとおり、ケヤキやイチョウの右奥にわずかに見える小さな山が高輪大木戸跡です。



高輪大木戸跡

【赤穂義士四十七士の墓がある『泉岳寺』】

萬松山泉岳寺は、曹洞宗の寺院で江戸三箇寺の一つです。「忠臣蔵」でおなじみの『泉岳寺』は、慶長17年(1612年)に徳川家康が、外桜田(現在のホテルオークラの近く)に門庵宗関を招いて創建。寛永18年(1641年)寛永の大火で焼失しましたが、将軍家光の命で、毛利・浅野・朽木・丹羽・水谷ら大名により、現在の高輪の地に再建され、浅野家と泉岳寺の付き合いはこの時から始まります。



泉岳寺山門

泉岳寺は、浅野長矩公と赤穂義士四十七士の墓があることで有名で、いまでも多くの参拝客が訪れ、墓所は線香が絶えることがありません。泉岳寺境内には、「四十七士墓所」のほかに、吉良上野介の首を洗ったといわれる「首洗い井戸」や「赤穂義士記念館」などがあります。



四十七士墓所

旧暦12月14日に討ち入りが行われたことから、毎年12月14日には義士祭が催され、泉岳寺は大勢の観光客で賑わいを見せます。ちょっと変わったところでは、管内の警察署において毎年12月に行われる交通安全パレードで、交通安全協会の方々に四十七士に扮していただき、年末年始の飲酒運転撲滅を呼びかけています。



交通安全パレード

【昭和の初めに完成した庁舎『高輪消防署 二本榎出張所』】

高輪地区のシンボリック的存在の『高輪消防署 二本榎出張所』の建物は、昭和8年(1933年)12月に完成した庁舎で、近代建築の遺産(ドイツ表現主義)として、東京都文化デザイン事業より保存建築物に指定されています。室内の装飾や階段の床、壁などに曲線や曲面をモチーフにした力強く流れる躍動感のある設計が特徴で、学術的、文化的にも貴重な建築物です。

建物は鉄筋コンクリート造り3階建てで、1階の腰壁は花崗岩の切り出し積み、玄関は御影石と木の扉でできています。3階は円形講堂で、その上に鉄筋コンクリート造りの望楼(火の見櫓)が構築され、望楼の表面はクリーム色の磁器タイルが施してあります。

完成当時は周囲に高い建築物がなく、海拔25mの位置にあることから東京湾を眼下に眺望でき、「岸壁上の灯台」「海原を行く軍艦」といわれたとのことです。



高輪消防署 二本榎出張所

【江戸無血開城と『西郷隆盛、勝 海舟 会見の地』】

高輪のお隣の三田には、今年一大ブームとなったNHK大河ドラマ『篤姫』ゆかりの地がありますので、最後にご紹介します。三田は薩摩藩上

屋敷があったところで、JR田町駅、都営地下鉄三田駅近く、第一京浜国道(国道15号線)沿いに、『西郷隆盛、勝 海舟 会見の地』の記念碑が立っています。明治維新前夜ともいえる慶応4年(明治元年1868年)3月14日、幕府の陸軍総裁の勝 海舟が江戸100万市民を悲惨な戦火から守るため、西郷隆盛と会見し江戸無血開城を取り決めた「勝・西郷会談」の行われた由緒ある場所です。



「西郷隆盛、勝 海舟 会見の地」の記念碑



「薩摩屋敷跡」の碑

(日本トムソン株式会社 人事総務部)